

課題 1

【出題の意図と対策】

山口仲美氏の『男が「よよよよよ」と泣いていた』からの出題である。筆者は日本語の動物や植物の名前の中で、オノマトペに由来しているものを例として挙げ、オノマトペが言葉の起源にかかりがあるのではないかという自らの主張を伝えている。また、その中で日本語がどのように移り変わってきたのかについても説明している。(1)では、「漢字一字＋漢字二字の熟語」で構成されている三字熟語の知識を問うた。(2)では、本文を読んで、その内容を踏まえた簡単なメモを作成する力を問うた。(3)では、文章の中で取り上げられた事例が、筆者の主張にどのような関係しているかを読む力、字数や必要な要素の多い記述式の答案を作成する力を試した。(4)では、文章と話し合いの内容を踏まえ、オノマトペが関係すると思われる複合語の起源について、自分なりの考えを提示できるかを試した。

【解答】

(1) (例) 未使用・好判断・新発売 など

(2) (例) 可愛いものに付ける接辞の「こ」(15字)

(3) (例) オノマトペと関係のなさそうな語についてオノマトペとの関係を示し、オノマトペが言語の起源に関係があると考えさせるため。(58字)

(4) (例) 雨がたくさん降る様子の「ドシヤ」に「降り」がつき、一語化するときには濁音化して「ぶり」と変化した。(48字)

【解説】

(1) 「漢字一字＋漢字二字の熟語」で構成されている三字熟語を考える。

(2) ……部分は、すぐ下に書かれている「ねこ」「ひよこ」「べこ」という言葉の起源を示したものである。「ねーねー」や「ひよひよ」「べーべー」は動物の鳴き声を写したオノマトペであり、その言葉が「ねこ」「ひよこ」「べこ」に変化しているのが、前後の言葉から、          の部分には、「こ」があてはまることが推測できる。あとは、この「こ」は「可愛いものに付ける言葉」「接辞としての言葉」ということを説明する必要がある。字数指定を踏まえると「可愛いものに付ける接辞の『こ』」などのようにまとめるとよい。

(3) 筆者は文章の最後の段落で、「ひいらぎ」という言葉について、「こうした一見オノマトペと結び付くとは思えない基本的な普通語が、オノマトペ出身なんです」と述べている。そしてさらに、「ということは、オノマトペは、言語の起源に何らかの関わり合いを持っているのではないかと思わせます」と述べている。この部分が、筆者が文章全体を通して主張したいことである。つまり、「ひいらぎ」を例として取り上げたのは、「ひいらぎ」というオノマトペと関係なさそうな語ですらオノマトペと関係していると考えられることを示したうえで、オノマトペと言語の起源には何らかの関係があるのではないかと読み手に考えさせたいのである。このことを、字数指定を踏まえてまとめて述べるとよい。

(4) 花子さんの発言を受けて、「どしゃぶり」という言葉の起源について自分の考えを書く。まず、「どしゃぶり」を「どしゃ」と「ぶり」に分けて考えるとよい。この「どしゃ」は「ドシヤ」や「ドサドサ」というオノマトペがもとになっていると考えることができるが、「土砂」のような言葉がもとになっていると考えてもよい。また、資料①では、「しろ」に「くみ」を付けて一語化すると、「しろぐみ」となるという例を挙げ、一語化する時に日本語では濁音化が起きるということを説明している。同じように「どしゃぶり」とは雨が降ることであるため、この「降る」が名詞化して「ふり」となり、濁音化して「ぶり」になったと説明できる。ここで求められているものは「あなた」の考えではあるが、資料①の文章をヒントにすると考えやすくなる。

課題 2

【出題の意図と対策】

スマートフォンやゲーム機などの普及による余暇活動に変化が起きている状況や、多忙化している現代の状況、健康志向が強くなっている状況などから、日本人の一部で読書離れが起きつつある。しかし、読書が人間の形成に大きく役立つことは今も昔も変わらないであろう。ここでは、読書離れが起きているということについて、自分の経験や見聞きしたことを踏まえて自分の考えを書き、さらに自分が読書とどのように向き合っていきたいかを書く。作文の条件にしたがって適切な内容を述べる力、具体的な経験を根拠として挙げる力、筋道の通った文章を書く力、指定された要素を織り込みながら、字数内で自分の考えをまとめる力をみる。

【解答】

(例) (私はAを選びました。なぜなら、) 私自身もスマートフォンを使う時間が前より増えたように感じているからです。時間のかかる読書より、すぐに使える情報機器で楽しむほうが簡単です。しかし、読書をするのでしか得られないものもあります。文字から場面を想像したり、筆者と対話しながら読んだりすること、読書ならではの経験です。時間をかけて本をじっくり読むということからにげることなく、読書としっかり向き合える自分になりたいと考えています。(199字)

【解説】

まず、アンケート結果から、自分が共感できる、もしくはまったく共感できない項目を選び、AとCのアルファベットを記入する。次に、設問にしたがって、その項目を「選んだ理由」を書き、その項目について考えたことを書く。その際、「自分の見聞きしたことや経験したこと」を「具体的」に書く必要がある。そしてそこで考えたことを踏まえて、「自分が読書とどのように向き合っていきたいか」を書く。以上の要素を盛り込みつつ、字数制限に収まるように注意して、簡潔に書く力が求められる。

課題 3

【出題の意図と対策】

日本のエネルギーに関する複数の資料を題材として、資料から読み取った内容を関連づけて説明する力、社会的事象に対する思考力や判断力、表現力をみる。

【解説】

(1) (例) 日本海側は冬に雪やくもりの日が多く、太陽光が当たりにくいから。

(2) 選んだ番号 ①

(例) 再生可能エネルギーを利用した発電を増やしたり、発電を高効率化したりして、火力発電で排出される二酸化炭素の量を減らす対策が行われている。

選んだ番号 ②

(例) 太陽光や風力などの再生可能エネルギーの利用を増やすことで、化石燃料を使わずに発電する電気を増やし、輸入燃料にたよりすぎないようにする対策が行われている。

(3) (例) 日本は二酸化炭素を減らすために再生可能エネルギーの利用を増やしていますが、その発電所が自然にえいきょうをあたえることもあります。だから、わたしたちは節電を心がけ、自然に大きな負担がかかる発電をできるだけさけ、新しいエネルギーの利用やリサイクルを進めて、化石燃料にたよりすぎない社会を目指すことが大切だと思います。

【解説】

(1) 太陽光発電に必要なものと、日本海側の気候の持ちようから考える。